貸出キットのご紹介

昭和館の常設展示をコンパクトにまとめた「貸出キット」です。多くの学校団体に利用されています。3種類あり、どれも実物資料とグラフィックパネルのセットで貸出しをしています（グラフィックパネルのみの貸出しも可能）。
実物資料は管理を簡易に行える仕様にしてあり、パネルは図解や写真を入れてわかりやすく解説してあります。
貸出しは無料ですが、送料と保険料は利用団体負担でお願いしております。詳しくは学芸部まで（ホームページでも紹介しています）。

貸出キットの中身

作品募集中 小・中学生 見学作文コンクール

小・中学生を対象に昭和館を見学して感じたこと、思ったことなどを書いた作文を募集しています。厚生労働大臣賞（賞品：デジタルカメラ）や昭和館館長賞（賞品：電子辞書）など各賞と多くの賞品を用意しており、本年度も多くの応募をお待ちしております。詳しい応募要項は、ホームページをご覧ください。前年度の優秀作品等もご覧いただけます。なお、今年度の応募締め切りは、平成21年1月15日（木）です。

作品募集中 高校生 ポスターコンクール

高校生の皆さんを対象に「戦中・戦後の暮らしを伝える」または「昭和館を紹介する」ポスターを募集しています。入賞作品には、賞状及び副賞を用意しており、個人またはクラブ活動として参加をお待ちしております。詳しい応募要項は、ホームページをご覧ください。なお、今年度の応募締め切りは、平成21年1月31日（土）です。

案内ビデオ・DVDのご紹介

昭和館キャラクター
ショーコちゃん

当館では、案内ビデオ・DVD「ショーコちゃんの昭和館を見てみよう！」を製作し、下見に来館された先生や、見学希望の学校に配布しております。当館のイメージキャラクターの「ショーコちゃん」と「カズコちゃん」が案内役となり、館の概要、展示資料、背景となった時代を実写とCGアニメで10分程にまとめ、紹介しております。ご希望の方は本紙下の応募券をはがきに貼って、総務部まで郵送してください。

〈編集後記〉

これまで、『昭和館だより』は、小・中学校用（10号）、高等学校用（4号）の2種類を発行しておりましたが、今回より合併して発行いたします。号数については、小・中学校用を継承しました。本誌を読まれたご感想、昭和館へのご意見、また実際に見学された際のご感想等を下記にお送りください。今後の編集と、館の運営の参考にさせていただきます。

昭和館
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1
昭和館　総務部
TEL 03-3222-2577 FAX 03-3222-2575
toiawase@showakan.go.jp
http://www.showakan.go.jp

応募券

左の応募券を切り取り、はがきに貼って、昭和館　総務部までご郵送ください。
ビデオ・DVD「ショーコちゃんの昭和館を見てみよう！」を学校にお送りいたします。

昭和館と学校をつなぐ広報誌

昭和館だより

第11号
平成20年11月25日発行

特別企画展「戦中・戦後をともにした動物たち」

（平成20年7月26日～8月31日）

ライオン「アリ」と「カテリーナ」（恩賜上野動物園蔵）

先の大戦中、戦争の長期化に伴い、身近な動物たちが軍用品をはじめ、毛皮用や食用など資源として扱われるようになり、農耕馬が軍馬に徴発されたり、飼い犬の献納運動が推進されたりしました。さらに動物園では、空襲で逃亡した動物による被害を防ぐため猛獣処分も実施され、動物たちにとっても戦争は暗い影を投げかけました。
一方、戦後の復興期には動物が明るい話題を提供し、人々の心を慰めてくれました。本展では、戦中・戦後を通して人間と動物たちとのかかわりを、実物資料・写真・手記などで紹介し、約1万1,000人の方が来場されました。

ウサギの飼育を呼びかけるポスター

夏の特別企画展に来館された小・中学生、高校生のアンケートの声

- 展示内容もパンフレットも分かりやすくて良かったです。動物の大切さを改めて実感しました。（小学生）
- 殺された動物園の象の牙が残されていて、戦争は人間の他に動物も殺すという大変良くない出来事だと思います。（小学生）
- とても充実した展示で、音声ガイドがあり、大変良かったです。（中学生）
- 戦時中にあったことがよくわかり、戦争は人間だけでなく、動物にも関わっていたのかと改めて思いました。（中学生）
- 忠犬ハチ公やかわいそうな象の話は知っていましたが、外来種の流入等知らなかったこともたくさん展示してありました。（高校生）
- 戦時中の動物達の事情が、大変よく分かり良かったです。（高校生）

次回特別企画展「ワーナー・ビショフ写真展（仮）」（平成21年3月）

スイス・チューリッヒ出身のカメラマンであるワーナー・ビショフ（1916～1954）は世界中の姿をカメラにとらえ、その中には日本もありました。ビショフは昭和26～27年（1951～52）にかけて来日し、28年には日本についての写真集を手がけました。ビショフが残した写真から様々な日本の姿を紹介します。

夏休み工作教室（バルーンアート）

細長い風船で、さまざまなものを形作るバルーンアート。今年の工作教室ではバルーンアートで動物を作りました。一番簡単でバルーンアートの基本となる「犬」、そこから応用をきかせた「きりん」や「うさぎ」の制作にも挑戦。風船をひねる作業は、最初のうちこそ勇気がいるものでしたが、慣れてくるにつれて、皆さん手際よく作っていました。

千代田図書館との連携イベント（ミュージアムトーク for KIDS「おじいちゃんが小学生だったころの動物園」）

今年は連携イベントという初の試みも行いました。特別企画展でも展示されていた絵本『かわいそうなぞう』の読み聞かせを千代田図書館の司書の方にしてもらい、昭和館の職員が『かわいそうなぞう』の時代背景を子どもたちに解説。動物を殺さなくてはならなかった時代があったこと、終戦後には動物が人々に元気を与えてくれたことを、写真を交えて説明しました。

風船職人SHINOによる動物バルーン・アート・ショー

そのほかのイベント

■「ミニSLがやってきた！」
石炭で動く、小さなSL機関車が昭和館2階広場に登場。独特の乗り心地と石炭のにおいは印象に残ったのではないでしょうか。

■「風船職人SHINOによる動物バルーン・アート・ショー」
瞬く間に様々な動物を作り上げていくSHINOさんに子どもも大人も見入っていました。

■「語り部の会」
佐藤満さん、安藤士さん、正田陽一さんに戦中・戦後の動物との生活などを話していただきました。

■「講演会」
絵本「ぞうれっしゃがやってきた」原作者である小出隆司さんに戦中・戦後の動物園について講演をしていただきました。

ぶっくくらぶ～蔵書紹介～

戦時中の紙不足による雑誌の統合や廃刊が相継ぐなかで、子どもたちを楽しませ続けた『少年倶楽部』。名物投稿コーナー「笑話」は、戦時色が漂い始めた昭和10年代に入るとよりおもしろくなったという興味深い話もあります。当館では、雑誌『少年倶楽部』と同書について書かれている図書を数多くお楽しみいただけます。

～『少年倶楽部』「笑話」より～

『一億火の玉』（昭和19年4月号・熊本県・松田敬之助）

甲「今年はストーブがないので、職場や学校は寒いだろうね。」
乙「寒くはないよ」
甲「なぜ」
乙「だって一億火の玉じゃないか」

今日の一枚～写真紹介～

"星条旗"二度目の来日（昭和20年9月2日）

この写真は、終戦直後に東京湾上のアメリカ戦艦ミズーリ号で行われた降伏文書調印式の時に撮影されたものです。写真右下の"星条旗"には、星の数が31個しかありません。この"星条旗"は、嘉永6年（1853）にペリーが黒船で来航した時のものといわれています。当時のアメリカは31州だったのです。ちなみに現在は50州。

資料の保存はどうしているの？

地下書庫

当館の蔵書は約10万冊あります。図書室に並んでいる図書は、3,000冊位に過ぎません。多くの貴重な資料は、ここで利用を待っています。

燻蒸室（くんじょうしつ）

収集した資料は収蔵庫で保管される前に燻蒸します。資料には害虫などの虫やカビがついていることがあり、そのまま保管してしまうと、その資料だけでなく他の資料まで害を与えてしまうため、この燻蒸室で殺虫します。薬剤を気化させたガスを用いるので、燻蒸は密閉された空間で行われます。

収蔵庫

展示されている資料は収集した資料のごく一部で、まだまだたくさんの資料を保管しています。その数約3万3,500点。それらの資料を保管しておく場所が収蔵庫で、資料の劣化を防ぐために、常に気温22℃、湿度40%に保たれています。